

株式会社 シンクENG

DX宣言書

2026年8月28日
株式会社 シンクENG
代表取締役 高橋 義博

□ 経営理念

常に客先の立場に立ち、創意工夫をもって、最善のサービスを追求する

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ デジタル技術を活用して業務の効率化と情報共有を推進し、組織全体の対応力をさらに高めていきます
- ◆ 板金の内製化も含め、設計から施工・メンテナンスまでを自社で一貫して担う強みをさらに高め、お客さまに安心と高品質なサービスを提供し続ける企業を目指します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2027年8月)

戦略 「現場の現状把握と人材確保によるデジタル化に向けた基盤づくり」

- 施策
- ・ 課題(工程・原価管理等)を特定するため、受注から製造・施工・メンテナンスに至る全体業務フローを把握・整理し、担当者別の工数を可視化
 - ・ 新工場稼働による効果を測定するため、稼働前のリードタイム・納期遵守率・在庫量・原価・外注費の数値等を一覧化して記録
 - ・ 新入社員・アルバイトの早期戦力化のため、図面・作業指示書をもとに行う標準作業の動画マニュアルを作成・活用
 - ・ 健康管理体制の整備や相談窓口等の従業員支援制度を整備・明文化し、安心して働ける職場環境を実現
 - ・ ホームページの新規作成と採用ページの開設による、採用活動の強化

➤ フェーズ2(2027年9月 ～ 2028年8月)

戦略 「業務のデジタル化と効率化の実現」

- 施策
- ・ 手書き運用書類(作業日報・残業申請書類等)の洗い出しを行うとともに、デジタル化対象業務の選定を実施
 - ・ 選定したデジタル化対象業務に対して、システムを導入するとともに運用ルールを策定
 - ・ 現場・外出先からの工程表へのアクセスと工数・進捗・原価データの一元管理・ダッシュボード化を実現するため、工程・原価管理ツールを導入
 - ・ 見積書作成の属人化解消のため、過去案件データ・資材の仕入れ価格データの整理および社長へのヒアリングをもとに、見積り作成プロセスをマニュアル化

➤ フェーズ3(2028年9月 ～ 2029年8月)

戦略 「属人化している業務の新たな担い手を育成」

- 施策
- ・ マニュアル化した見積り作成プロセスと資材の市場相場・仕入れ価格情報を活用した見積り作成を実践し、見積書作成の担い手を増やすとともに、見積り精度を向上
 - ・ メンテナンス対応力をさらに高めるため、顧客管理ツールを活用し、設備メンテナンスの対応履歴・設備情報・対応手順等を記録・共有することで、メンテナンスを担える新たな人材を育成
 - ・ 上記対応による、見積り作成業務とメンテナンス業務の新たな担い手の確保により、制御盤製作業務時間を確保し、残業時間を削減
 - ・ 安定した経理業務の運用を実現するため、経理ソフトを導入し、これまで簿記知識を必要としていた売上・経費等の記録・集計作業を効率化

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- | | |
|------------------|-------------------------------|
| ・ 採用人数 | : 3名(経理担当者1名以上含む)以上(～2028年8月) |
| ・ メンテナンス対応可能な人材数 | : 2027年度比2名以上増加(～2029年8月) |
| ・ 年間残業時間の削減 | : 2027年度比20%削減(～2029年8月) |
| ・ 見積り作成者数の拡大 | : 社長以外1名以上(～2029年8月) |